

横浜ゴムと NEC、実践的 DX リーダー育成プログラムを共同開発し 展開～人材育成とデータ基盤整備の両輪で横浜ゴムの DX 推進を加速～

2 年間の試行で磨き上げた実践型プログラムを 2026 年 4 月より展開、横浜ゴムの DX 人材育成目標達成を目指す

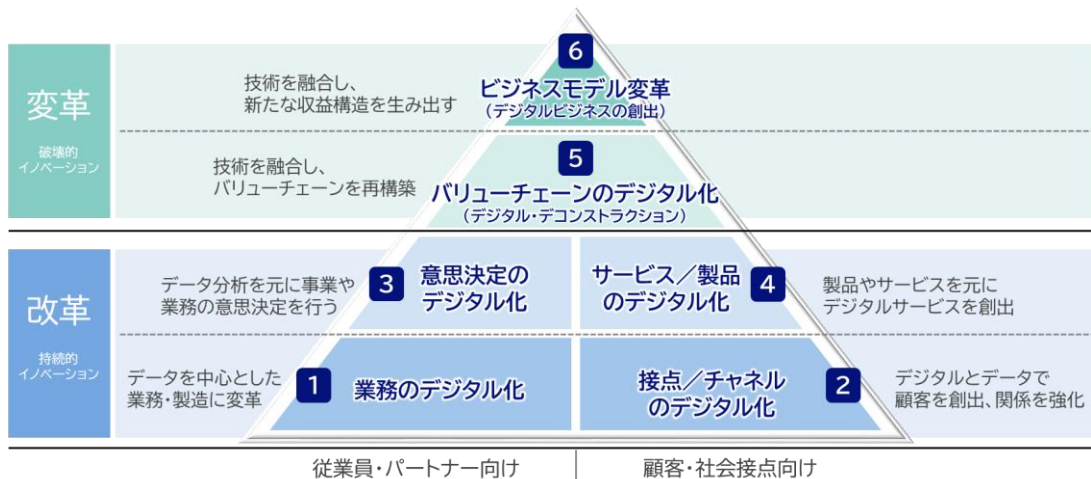
横浜ゴム株式会社(本社:神奈川県平塚市、代表取締役会長 兼 CEO:山石昌孝、以下「横浜ゴム」と日本電気株式会社(本社:東京都港区、取締役 代表執行役社長 兼 CEO:森田隆之、以下「NEC」)は、2024 年 11 月から取り組んできた実践的 DX リーダー育成プログラムについて、2 年間の成果を踏まえ、2026 年 4 月より両社で共同開発したオリジナルプログラムを開始しました。



\Orchestrating a brighter world

本プログラムは横浜ゴムの DX 戦略を推進する人材育成ニーズと、NEC が提供する、デジタル時代に必要となる組織・人材育成の包括的なサービス「BluStellar Academy for DX」(注 1)の一つである「変革推進リーダー養成支援」をベースに、両社で共同開発したオリジナルプログラムです。2024 年 11 月に DX に不可欠なビジネス力強化を目指して導入を開始し、試行を経ることでメタ認知力の強化も目指したプログラムへと進化させ、横浜ゴムが掲げる「2026 年度末までに事務・技術系職員の 10%を DX リーダーとして育成」という目標達成を目指します。

また、人材育成と並行して、NEC が提供する AI データ分析プラットフォーム「dotData Product Suite」によるデータ活用基盤の整備を推進しており、DX 推進における「人材」と「基盤」の両輪での取り組みを実現しています。



<本プログラムで検討する DX の 6 つの類型>

【背景】実践的 DX 人材育成への両社の課題認識

近年、企業が DX を推進し競争力を維持するためには、技術的な知識だけでなく、組織横断で変革をけん引できるリーダーシップを持つ人材が不可欠となっています。しかし、多くの企業では知識習得型の研修が中心となっており、実践的なスキルの習得や組織変革の実行力を持つ人材の育成に課題を抱えています。

横浜ゴムは、DX 戦略を推進するには牽引役となる人材が不可欠との認識のもと、独自の AI 活用フレームワークである「HAICoLab(注 2)」を実践できるビジネス人材を DX 人材と定義し、現場改善や新たな企画を立てられる人材の育成に注力してきました。

一方、NEC は自社の全社規模 DX 変革で蓄積した実践知をもとに、実務に直結した人材育成プログラムを提供しており、両社の課題認識とソリューションが合致したことから、本取り組みがスタートしました。

【2年間の取り組みと成果】共同開発プログラムの実践と進化

横浜ゴムは、「HAICoLab」のコンセプトのもと、2024 年 11 月より、人事部門・情報部門・研究部門の 3 部門が共同して、NEC の「変革推進リーダー養成支援」で活用される「DX キャンバス」(注 3)をベースに、横浜ゴムが重視する観点を盛り込み、項目・内容を見直した DX キャンバスを活用した育成プログラムのトライアルを開始しました。2025 年までに 2 期のプログラムを完了し、以下の成果を創出しています。

- DX リーダーに求められるスキルの習得
- ビジネスにおける課題探索と仮説立案の実践
- 経営層も参加した発表会を通じた DX マインドの醸成

これらの成果を踏まえ、両社は試行錯誤を重ねながらプログラムを磨き上げ、より実務における成果創出を確実に実現できるオリジナルプログラムへと進化させました。具体的には、HAICoLab の実践に必要なメタ認知力の向上を目的に、本プログラムでは、受講者がメタ認知とオープンマインドを働かせながら、自身の既存のスキーマ（注 4）を揺さぶり、他者の視点から得られる気づきを取り入れることで、仮説としての DX 企画を多面的に検証し、より実効性の高いものへと磨き上げるプロセスを組み込んでいます。これにより、横浜ゴムが掲げる「2026 年度末までに事務・技術系職員の 10%を DX リーダーとして育成」という目標達成に向けた取り組みの一つとして寄与してまいります。

【プログラムの特長】横浜ゴムと NEC の協業により実現

本プログラムは、横浜ゴムの DX 戦略ニーズと NEC の DX 実践知を融合させた、以下の特長を持つオリジナルプログラムです。

1. 実践重視のプログラム設計

DX 戦略の課題解決に直結する実践研修を中核に配置。単なる知識習得に留まらず、NEC の独自フレームワーク「DX キャンバス」をベースに横浜ゴム独自の HAICoLab の観点を取り入れたオリジナル DX キャンバスを活用したワークショップによって、具体的な DX 企画の立案から、現場・組織での変革推進まで、一気通貫で実践できる力を養成します。

2. 横浜ゴムの教育体系との統合

横浜ゴムの既存教育体系と統合することで、教育プログラム全体を最適化。教育投資の効率化を図りながら、実効性の高い人材育成を実現します。

3. NEC 自身の DX 実践知の提供

NEC 自身が全社規模で DX 変革を推進してきたリアルな経験に基づく実践知を体系化。机上の理論ではなく、実際の変革プロセスで検証されたノウハウを提供します。

【「人材」と「基盤」の両輪支援】横浜ゴムの DX 推進を加速

横浜ゴムは、DX 推進において人材育成と並行してデータ活用基盤を整備し、NEC は「人材」と「基盤」の両輪で支援しています。

■AI データ分析プラットフォーム「dotData」による基盤整備

横浜ゴムは、HAICoLab を実践するためのデータ活用基盤として、AI データ分析プラットフォーム「dotData」を採用しており、NEC は導入から運用まで一貫してサポートしています。

dotData は、データ分析において、最も重要かつ難易度が高い「特徴量設計」を自動化することで、専門的なデータサイエンススキルを持たない現場の実務担当者でも高度なデータ分析を可能にします。

■dotData Product Suite への進化

横浜ゴムにおける dotData 活用は、「dotData Product Suite」の導入により新たなステージへと進化しました。データ準備から分析、可視化、運用まで幅広いユースケースと活用フェーズに対応できる基盤整備により、DX リーダーがデータを実際に活用し、組織変革を推進できる実践環境が実現しました。

【今後の展望】

横浜ゴムは、本プログラムを通じて育成された DX リーダーが中心となり、「HAICoLab」を実践した組織全体のプロセス改革をさらに推進していきます。2026 年度末の目標達成に向け、引き続き NEC との協業を深め、データドリブンの経営基盤の構築と、DX 人材の継続的な育成を進めてまいります。

NEC は、価値提供モデル「BluStellar(ブルーステラ)」(注 5)のもと、最先端テクノロジーによりビジネスモデルを変革し、社会課題とお客様の経営課題を解決に導きます。今後も、NEC 自身が実践した DX 推進・DX 人材育成の取り組みで得た実践知をお客様に提供する活動を推進・拡大し、より多くの企業の DX 推進を支援してまいります。

以上

(注 1) BluStellar Academy for DX について

[BluStellar Academy for DX: BluStellar | NEC](#)

(注 2)  ハイコラボ **HAICoLab**

「HAICoLab（ハイコラボ）」は、横浜ゴム独自の AI 活用フレームワークです。社内に蓄積されたデータや知識を活用して AI（Artificial Intelligence）を高度化し、人がメタ認知を働かせながら仮説を設定し、AI を活用し、その結果を解釈・判断することで、製品・プロセス・サービスの革新と人の成長を循環的に促していく“人と AI との協奏”の枠組みです。

(注 3)DX キャンパスについて

DX キャンパスはビジネスモデルキャンパスを NEC が DX 企画構想向けに開発・提供しているツールです。

(注 4) スキーマについて

スキーマは、頭の中で形成される知識や思考の枠組みです。スキーマのおかげで人は早く選択・判断できる一方で、固定観念など好ましくないバイアスが生じるといわれています。

(注 5) **BluStellar**

「BluStellar(ブルーステラ)」は実績に裏打ちされた業種横断の先進的な知見と長年の開発・運用で研ぎ澄まされた NEC の最先端テクノロジーにより、ビジネスモデルの変革を実現し、社会課題とお客様の経営課題を解決に導き、お客様を未来へ導く価値創造モデルです。

<https://group.nec/jp/ja/solutions/nec-blustellar/>

< 本件のお問い合わせ先 >

横浜ゴム株式会社 経営企画部 広報室

E-Mail : yinfo@y-yokohama.com

NEC データ & アナリティクス事業部門

E-Mail : contactus@dotdata.jp.nec.com